

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ツルシギ

Tringa erythropus (Pallas, 1764)

守屋年史（バードリサーチ）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：守屋年史，2026．ツルシギ．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 213-217．

Citation: Moriya, T., 2026. *Tringa erythropus* (Pallas, 1764). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 213-217.

チドリ目 Charadriiformes シギ科 Scolopacidae

ツルシギ

Tringa erythropus (Pallas, 1764)

カテゴリー判定結果

絶滅危惧 I B 類 (EN)

A2

基準 A: EN

基準 B: —

基準 C: —

基準 D: —

基準 E: —

A2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。

【比較年】

10 年（世代時間不明）

【過去の状況】

最大個体数指標を算出し、2000 年を基準値 1.00 とし、2007 年時点で、平均 2.73（春期 2.34、秋期 3.12）。

【近年の状況】

最大個体数指標を算出し、2000 年を基準値 1.00 とし、2017 年時点で、平均 0.92（春期 0.79、秋期 1.05）。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

嘴が細長く、脚が長い中型のシギ類。繁殖羽は全体的に黒色。非繁殖羽は腹部が白色、背面が灰褐色。下嘴が赤色。スカンジナビア半島北部からロシア極東北部の高緯度地域で繁殖する。国内では繁殖せず、全国的に渡り鳥として確認され、本州以南では一部越冬する。干潟や陸水域の減少などにより利用可能な生息地が減少している。

基礎情報

【形態】

全長約 30 cm。嘴が細長く、脚が長い中型のシギ類。繁殖羽では、嘴は黒く下嘴の基部は赤色。目には白いアイリングがある。頭部から腹部にかけて一様に黒色、背面も黒色地に白斑がある。脚は暗赤色。非繁殖羽は、眉斑があり、頭部、背面には灰褐色地に白色斑がある。頬から腹部にかけては白色。脚は赤色。幼鳥は非繁殖羽に似るが、全体的に黒色味が強い。頬は白色、喉から腹部にかけては、白色地に灰褐色の斑がある。飛翔時に上面の腰から背中にかけて白色が目立つ。雌雄同色。「ピュイ」と鳴く。アカアシシギ (*Tringa totanus*) は、やや小さく、より嘴・脚が太く、嘴の基部は上嘴も赤色。眉斑は後ろまで伸びない。飛翔時の次列風切羽が白い。

【生活史】

国内では繁殖せず、渡り鳥として春期、秋期に全国で観察されるが、個体数は春期のほうが多い。主に一夫一妻、または一妻多夫で繁殖を行う。5 月中旬～7 月下旬にツンドラ地帯の低木に隠れた草むらやコケ類の密生地に作られた巣に通常 4 個産卵する。メスは産卵後雛の孵化前に巣を去り、育雛はオスがほとんどを行う。非繁殖期には群れをつくる。水生昆虫、甲殻類、軟体動物、魚類、両生類などを餌として利用する。水深が浅いところではつつきながら採餌し、深いところでは首を振りながら採餌を行う傾向がある。

【生息環境】

干潟、湿原、河川や池沼などの水辺や水田、ハス田、休耕田に生息する。淡水または汽水の様々な湿地で生息しているが、塩水性の湿地はあまり好まない。

生息環境区分：	【陸域_平地部】田地・畑地，湿地・湿原，河川中流域，ため池・池沼，潟・湖・ダム湖，汽水域，潟・汽水湖
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域

【分布域】

国外では、スカンジナビア半島北部からロシア極東北部の高緯度地域で繁殖し、地中海沿岸、アフリカ中央部から中近東、南アジア、東南アジアまでの主に沿岸地域で局地的に越冬する。国内では、全国的に渡り鳥として確認され、本州以南では一部越冬する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

現況でも全国的に確認されるが、湿原、水田、海岸などの水辺に限られるため、生息環境の消失は国内分布に影響を与えている可能性がある。

【生息地の現況】

干潟や湿原、水田、ハス田などの陸水域の減少、乾田化、放棄水田の草地化による環境変化などにより利用可能な生息地が減少している。主な生息環境である湿地は、明治・大正期から 1990 年代後半頃までの間に湿地面積の 61.1% に当たる 1,289.62 km² が消失してい

る（国土地理院 2000）。

【個体数の現況】

現在、IUCN のレッドリストでは低危険種（Least Concern）とされている。東アジアのフライウェイでは全体で約 25,000～10 万羽、そのうち約 20%が中国東部を通過すると推定される。

2008 年を基準としたモニタリング調査の結果を用いた研究では、ツルシギの春期の推定変化率は、-88.21%（30 年前比：有意）、-72.52%（20 年前比：有意）、-14.53%（10 年前比）、秋期の推定変化率は、-23.29%（30 年前比）、-6.41%（20 年前比）、118.90%（10 年前比）（Amano et al. 2010）であり、特に春期は著しい減少を示していた。

直近のモニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 2004-2017 年度 とりまとめ報告（2020）では、Amano et al. 2010 と同様の分析を行い、最大個体数指標を算出し、2000 年を基準値 1.00 とし、2007 年時点で、平均 2.73（春期 2.34、秋期 3.12）、2017 年時点で、平均 0.92（春期 0.79、秋期 1.05）。2000 年から増加傾向の後、直近の 10 年（2007～2017 年）では、春期に減少傾向が見られている。

存続を脅かす要因

干潟・湿地の埋立てによる採餌場所、餌動物の減少。農耕地の乾田化、放棄水田の草地化、防鳥ネットによる事故死など農法や農業環境の変化による生息地の減少。越冬地での狩猟・捕獲による個体数減少も懸念されている。長距離の渡りを行う種に関しては、国内のみに減少の要因を求めることが困難な場合もあり、繁殖地、中継地、越冬地それぞれに脅威がある。

要因の区分：	（過去）	湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備
	（現在）	湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備

特記事項

日本に渡来するガンカモ類やシギ・チドリ類などの渡り性水鳥類が利用する主要な渡来地については、河川湖沼 84 ケ所のうち 41.7%が保護区域未指定、干潟・湿地 152 ケ所のうち 66.7%が保護区域未指定であり、干潟・湿地を利用する鳥が多数訪れる場所については保護地域としての指定が遅れている現状が指摘されている（三上ら 2012）。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU
第4次 2019:	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU
第4次 2018:	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU

第4次 2017:	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU
第4次 2015:	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU
第4次:	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【北海道】絶滅危惧Ⅱ類(Vu), 【宮城県】準絶滅危惧(NT), 【秋田県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【山形県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【茨城県】準絶滅危惧, 【栃木県】絶滅危惧Ⅱ類(B ランク), 【千葉県】最重要保護生物(A), 【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【東京都（南多摩）】情報不足(DD), 【神奈川県】準絶滅危惧(非繁殖期), 【新潟県】準絶滅危惧(NT), 【富山県】情報不足(DD), 【石川県】準絶滅危惧(NT), 【福井県】県域準絶滅危惧, 【静岡県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【愛知県】絶滅危惧ⅠB類(EN)(通過), 【三重県】準絶滅危惧(NT), 【滋賀県】希少種, 【京都府】絶滅危惧種, 【大阪府】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【兵庫県】B ランク, 【岡山県】絶滅危惧Ⅱ類, 【徳島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【香川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【高知県】準絶滅危惧(NT), 【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【佐賀県】準絶滅危惧種, 【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【熊本県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【大分県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類, 【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

鳥獣保護管理法

参考文献

- Amano, T., T. Székely, K. Koyama, H. Amano and W. J. Sutherland, 2010. A framework for monitoring the status of populations: An example from wader populations in the East Asian-Australasian flyway. *Biological Conservation*, 143: 2238-2247.
- 天野一葉, 2006. 干潟を利用する渡り鳥の現状. *地球環境*, 11 (2): 215-226.
- 国土地理院地理調査部環境地理課, 2000. 国土地理院の湖沼湿原調査: 日本全国の湿地面積の変化.
- 三上かつら・高木憲太郎・神山和夫・守屋年史・植田睦之, 2012. 渡り性水鳥類の渡来地の保護区域指定の現状. *日本鳥学会誌*, 61: 112-123.
- 中村登流・中村雅彦, 1995. 原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉. 保育社, 大阪.
- 日本鳥学会, 2024. 日本鳥類目録改訂第8版. 日本鳥学会, 東京. 506pp.

- Sutherland, W. J., J. A. Alves T. Amano, C. H. Chang, N. C. Davidson, C. Max Finlayson, J. A. Gill, R. E. Gill P. M. Gonzalez, T. G. Gunnarsson, D. Kleijn, C. J. Spray, T. Székely and D. B. A. Thompson, 2012. A horizon scanning assessment of current and potential future threats to migratory shorebirds. *Ibis*, 154: 663-679.
- Van Gils, J., P. Wiersma, and G. M. Kirwan, 2020. Spotted Redshank (*Tringa erythropus*), version 1. 0. In *Birds of the World* (J. del Hoyo, A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie, and E. de Juana, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY, USA. <https://doi.org/10.2173/bow.spored.01>
- Wetlands International, 2023. “Waterbird Populations Portal”. Retrieved from wpp.wetlands.org on Mon Feb 2020 23.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Tringa erythropus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Tringa erythropus* is listed as EN under criteria A2.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 50\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area Plain】 Farmland, Wetland, Middle river basin, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam, Brackish water, Lagoon/Brackish lake
Threat types:	Lake development, River development, Wetland development, Field preparation
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



©三木敏史



©守屋年史 (バードリサーチ)

執筆者: 守屋年史 (バードリサーチ)
Author: Toshifumi Moriya

公表年月: 2026 年 3 月